

# 追悼 尾崎宗秀さん

平成二十三年十二月一日を、決して忘れることはありません。非業の死を遂げられた日であるからです。さぞ、無念であったことでしょう。

尾崎さんは、平成九年のJネット発足時から近畿地区のまとめ役としてご苦労され、平成十三年からは副会長として一層ご活躍していただきました。



東京での月一回のサロンは、Jネット発足後間もなくでしたが、大阪・名古屋でもサロンを開催したらどうかという話になり、尾崎さんには、近畿地区の責任者兼事務局として地区在住者への案内作成と郵送・電話連絡・サロン会場とするホテルとの折衝・会計等業務を一人で担当、年一回開催してもらっていました。

ご本人は、きつい仕事でもあり、高齢であるため出来るだけ早く後任者にバトンタッチしたいということを常々申され、昨年後任も決まったばかりでした。

今年は、気持ちも楽に出席できると思われるいたのではないのでしょうか。

おりしも今年は、十二月十七日に節目の十回目の近畿地区サロンが予定されていたのです。

それが無残にも打ち砕かれたことは、今年もお会いできることを楽しみにしていた私には衝

撃的な大事件であり、大きな憤りです。

尾崎さんとは、平成十七年十二月の近畿地区サロンが最初で、以来、毎年このサロンでお会いするようにになりました。

話をすればするほど紳士的で温和、責任感の強い方で、サロンをリードしつつ出席者の方々の中に入つての歓談にも実直さが表れ、カラオケも楽しむ、誰からも歓迎される、そんなお人柄でした。そのため、私達はそれに甘え、ややもすればお任せの感がありました。

近畿地区のJネットについてお話しされた時、今後の事務局機能の強化と上越市役所からの支援・協力の必要性、市長・幹部の来阪を強く希望されておりましたが、実現できなかったものもあり心残りだったことと思います。

一方、サロン終了後の二次会では、もうちょっとリラックスしておしゃべりやお酒を楽しんでおられました。

そんなお姿を思い出しつつ、もう二度とお会いすることが出来なくなってしまうことががたまらなく寂しいのです。

ここに尾崎さんの死を悼み、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成二十三年十二月十二日

理事 藤沢勝一郎